

がオーロラ見たさに冬のフェアバンクスを訪れるが、冬の観光客は、ほとんど日本人である事を地元の人はよく知っている。-30°Cの闇夜の中で何時間も立ち続け、感激して帰ってゆく日本人は、オーロラを見慣れた地元の人には、何かがありすぎて何か欠けているという印象を与えるようである。

真冬の-40°Cの世界は体験してみなければわからないであろう。フェアバンクスでは気温が-40°Cを下まわる日が、年に平均して6日ある。自動車の排気ガスが飛行機雲のように後に残り、それが溜まって町中がアイスフォッグに包まれる。自動車、家、発電所などの水蒸気源のない郊外にアイスフォッグは見られない事から人為的大気汚染と考えられている。そんな日には面白い実験がいろいろできる。熱いコーヒーをカップから空中に撒きちらすとシューッという音とともに蒸発し、下には一滴も落ちずに褐色の霧が目前に残るのみである。シャボン玉は空中で凍り雪の上に落ちてコロコロと転がってゆく。バナナで釘が打てる。スキーもスケートも滑らな

い。涙が凍って目が開けにくくなる。駐車していた車のタイヤはその重さで四角くなる。一度試しに防寒ズボンなしで-40°Cの中を歩いてみたことがある。15分程歩いたところで足が痙攣を起こし、人のいない場所で立往生しそうになったが、なんとか家までたどり着いた。冬の話は尽きないが、繰り返し体験したくはないことが多い。

やがて春分が過ぎると、気温が急上昇し、スキーも車もよく滑るようになる。4月になって気温が0°Cを越えると半年以上存在していた雪が数日で解けてなくなってしまう。気温上昇が急激であるがゆえに雪解けの時期は毎年正確にやってくる。従って仕事のスケジュールはたてやすい。雪解け10日後がマジックデーである。この日を境に長かった冬の事は忘れてしまう。アラスカは一年中冬と思っているような友人を招待するなら、このマジックデーに予定をセットし、その上半袖姿で出迎えたなら、きっとフェアバンクスに好感を持ってくれるに違いない。

## 国際学術研究集会への出席補助金受領候補者の募集のお知らせ

国際学術交流事業(天気32巻5号参照)の一環として、国際学術研究集会への出席の旅費もしくは滞在費の補助を下記により行いますので、希望者は期日までに応募願います。

### 記

#### 1. 対象の集会

A: 1992年6月1日~11月30日および

B: 1992年12月1日~1993年5月31日

の期間外国で開かれる国際学術研究集会

#### 2. 応募資格

日本気象学会会員で国際学術研究集会に出席し論文の発表もしくは議事の進行に携わる予定のもの。

#### 3. 募集人員

若干名

#### 4. 補助金額

アメリカ・ヨーロッパ地域 15万円

その他の地域 10万円

#### 5. 応募手続

所定の申請書類(日本気象学会事務局備付)を期日までに国際学術交流委員会(〒100 東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁内日本気象学会気付)に提出する。大学院生は指導教官の推薦状を併せて提出する。

期日: A 1992年2月28日

B 1992年8月31日

#### 6. 補助金受領者の選考・義務

当該集会終了後30日以内に委員会に報告書を提出する。